

栄養・薬理学

[講義] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 笠師久美子 kasashik@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

<栄養学>

栄養学とは、栄養素の体内での利用と、成長・健康・疾病との関係を科学的に理解する学問である。本科目では、人体の成長・発達および健康維持に必要な栄養の基礎として、五大栄養素の役割や代謝、エネルギー収支の仕組みを学ぶ。あわせて、栄養不足や過栄養が身体機能や全身状態に及ぼす影響を理解する。

<薬理学>

薬理学は薬物と生体の相互作用を理解する学問である。本講義では、医薬品がどのようなしくみで生体に作用するかについての基本知識を習得する。さらに薬物の体内動態などの薬物に影響を及ぼす要因や、薬物の副作用についての知識を習得する。これらの授業内容を通じて医薬品と生体の相互作用に関する理解を深め、リハビリテーション医療に生かせる薬物の基本的な知識を身につける。

【学修目標】

<一般目標>

- 1. 栄養の基礎および栄養障害が対象者にもたらす影響を学習することにより、言語聴覚療法における栄養学の重要性を理解する。
- 2. リハビリテーション医療を考慮した薬物治療の知識を習得する。
- 3. リハビリテーション医療を継続できるよう、医薬品の副作用や有害事象に関する知識や情報を習得する。

<行動目標>

- 1. 栄養素の代謝および役割の概要を説明できる。
- 2. 栄養不良および過栄養が身体に及ぼす影響を説明できる。
- 3. 薬物の作用様式と作用機序を説明する。
- 4. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄を説明する。
- 5. リハビリテーション医療と関連する主な薬物の薬理作用を説明する。
- 6. 薬物の副作用、有害作用の基本的事項を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	中枢・末梢神経系疾患に対する薬	・中枢・末梢神経系疾患の主な治療薬の作用機序を説明できる。 ・中枢・末梢神経系疾患治療薬を選択する時の注意点を説明できる。 ・治療薬の副作用とその対処方法を説明できる。	笠師久美子
2	栄養素の代謝と働き	・5大栄養素の構造・代謝・役割を学ぶ。 ・消化・吸収と栄養素の体内動態について学ぶ。	下村敦司
3	精神疾患に対する薬	・精神疾患の主な治療薬の作用機序を説明できる。 ・精神疾患治療薬を選択する時の注意点を説明できる。 ・治療薬使用時の副作用とその対処方法を説明できる。	笠師久美子
4	循環器疾患に対する薬	・循環器疾患の主な治療薬の作用機序を説明できる。 ・循環器疾患治療薬を選択する時の注意点を説明できる。 ・治療薬使用時の副作用とその対処方法を説明できる。	笠師久美子
5	呼吸器疾患に対する薬	・呼吸器疾患の主な治療薬の作用機序を説明できる。 ・呼吸器疾患治療薬を選択する時の注意点を説明できる。 ・治療薬使用時の副作用とその対処方法を説明できる。	笠師久美子
6	炎症・鎮痛に対する薬	・主な鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬の作用機序を説明できる。	笠師久美子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬を使用する時の注意点を説明できる。 ・治療薬使用時の副作用とその対処方法を説明できる。	
7	感染症に対する薬	・感染症の主な治療薬の作用機序を説明できる。 ・感染症治療薬を選択するときの注意点を説明できる。 ・治療薬使用時の副作用とその対処方法を説明できる。 ・感染対策について説明できる。	笠師久美子
8	栄養不良と過栄養	・低栄養や肥満が身体機能、疾患に及ぼす影響について学ぶ。 ・主な病態の栄養療法について学ぶ。	下村敦司

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(筆記試験)100%

【教科書】

飯田薫子 他 監修 「一生役立つ きちんとわかる栄養学 第3版」 西東社 2023年
PT・OT・STのためのリハビリテーション薬剤 生活機能をより高める“リハ薬剤” 医歯薬出版 2024年

【参考書】

若林秀隆 著 「PT・OT・STのための リハビリテーション栄養 基礎からリハ栄養ケアプロセスまで 第3版」 医歯薬出版 2020年
内山靖・藤井浩美・立石雅子 編集 「リハベーシック 薬理学・臨床薬理学」 医歯薬出版 2024年
宮越浩一 編 「リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理」 羊土社 2019年
若林秀隆 代表編集 「機能・活動・参加とQOLを高める リハビリテーション薬剤」 じほう 2019年

【備考】

<栄養学>

1. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示
・ 授業に関わる連絡はGoogle Classroomまたはi-Portalを利用する。
・ 資料の配信はGoogle Classroomを利用する。
・ 学習課題の提示はGoogle Classroomを利用する。
2. 授業に関する意見交換
・ Google Classroomを利用する。
3. 授業の理解度把握
・ Google formsによる小テストを利用する。

<薬理学>

1. 授業資料：講義前に配付
2. 補足情報：講義の中で関連の動画等の配信を行う
3. 出欠確認：受講確認Googleフォームを利用して受講を確認する
3. 疑問点等の対応：受講確認フォームに疑問や感想を入力し、疑問点等について次回の講義時に解説を行う

【学修の準備】

<栄養学>

言語聴覚学専門科目につながる重要な科目であり、さらに覚えることが非常に多い。そのため、予習・復習を欠かさずに行うことが必要である。
予習は、次回の授業内容について、教科書、参考書あるいは授業で配布された資料を読んで理解に努めること（80分）。
復習は、教科書、参考書あるいは授業で配布された資料、さらに授業でとったメモに基づき十分に理解を深めること（80分）。

<薬理学>

講義終了時に次回のテーマに関する用語を提示し、薬理学用語の事前学習とする。（80分）
前回の授業内容を復習しておくこと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP2) 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

笠師久美子（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

長期実務経験を基に、チーム医療においてリハビリテーション専門職が備えておくべき医薬品に関する基本的事項を講述し、多種多様な医薬品の特性に関する理解を深めるための講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している